

「2013年幼児生活時間調査」の主な結果について

幼児のテレビ視聴がさまざまな面で変化しつつある。現代の乳・幼児のメディア利用を含めた生活行動を時間の面からとらえた「2013年幼児生活時間調査」の結果について報告する。

＜2013年幼児生活時間調査 調査の概要＞

調査日： 2013年3月3日(日)、4日(月)

調査相手： 首都圏(東京50キロ圏)に住む0歳(4か月)～就学前の幼児
(平成18年4月～平成24年10月生まれ) 1500人 (10人×150地点)

調査方法： 調査対象日(2日間)の時刻別(15分刻み)の生活行動／在宅状況／メディア利用行動について、NHKが5年ごとに実施している国民生活時間調査と同形式の調査票に記入してもらった(配付回収法)。なお、記入は調査対象幼児の保護者による。

有効調査相手数(率)： 985人(65.7%)

■ 行動分類

(1) 幼児の行動

行動名	具体例
在宅	自宅や庭にいた時間
すいみん	夜のすいみん、ひるね、うたたね(30分以上)
食事	朝・昼・夕食、間食、授乳、おやつ、外食
身のまわりの用事	トイレ、おむつ替え、シャワー、散髪など
幼稚園・保育園	(自宅と園の往復、園で食べる食事、昼寝などを含む)
外出	日常的な用事で親が連れて行った外出
テレビ	(実際に子どもが「見たり聞いたりした」と思う時間)
子のみテレビ	そのうち、子どもだけでテレビを見た時間
録画番組・ビデオ	録画したテレビ番組、ビデオ、DVDを見る
子のみビデオ	そのうち、子どもだけでビデオを見た時間
TV・携帯ゲーム	テレビゲーム、パソコンゲーム、携帯ゲーム機をする
子のみゲーム	そのうち、子どもだけでゲームをした時間
インターネット	インターネットでウェブサイトや動画を見る、ゲームをする
絵本・マンガ	絵本やマンガを見た、読んだ(大人が読んであげたことも含む)
ラジオ、CD	ラジオやデジタルオーディオプレーヤー、CD・テープを聞いた
屋外遊び	公園、庭など屋外での遊び、三輪車・自転車遊び、散歩
屋内遊び	自宅・友人宅・親戚宅など屋内での遊び、お手伝い、おかたづけ
場所不明遊び	遊んでいたが、屋内か屋外かわからない
けいこごと	スポーツや音楽教室などのけいこごと、塾に行った、幼児向けの学習教材をした、家でおけいこの練習をした
行楽	観光地・遊園地・動物園などに行った、祭りの見物、ドライブ、ハイキング、旅行、催しもの・イベントに行った、映画・劇場に行った、など
休息	30分未満のすいみん、ぼーっとしている、ぐずっている、など
療養・静養	病院・医者へ行く、診療や治療を受ける、入院中、病気で寝ている、予防接種・健康診断を受ける
行動不明	子どもにたずねても、どうしても不明の時間
その他	上記の行動にあてはまらないもの

※太字は2013年調査で新規に追加した行動項目

(2) 保護者のテレビ・ビデオ視聴

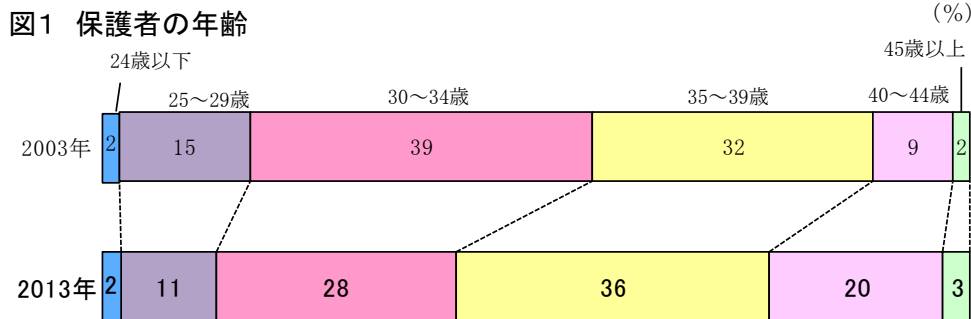
母テレビ	
母子テレビ	そのうち、調査相手の子どもと一緒にテレビを見た時間
母ビデオ	
母子ビデオ	そのうち、調査相手の子どもと一緒にビデオを見た時間

<調査の主な結果>

1. 幼児を取り巻く環境の変化 ～ 母親の高年齢化、就労する母親の増加、 増える低年齢の保育園児

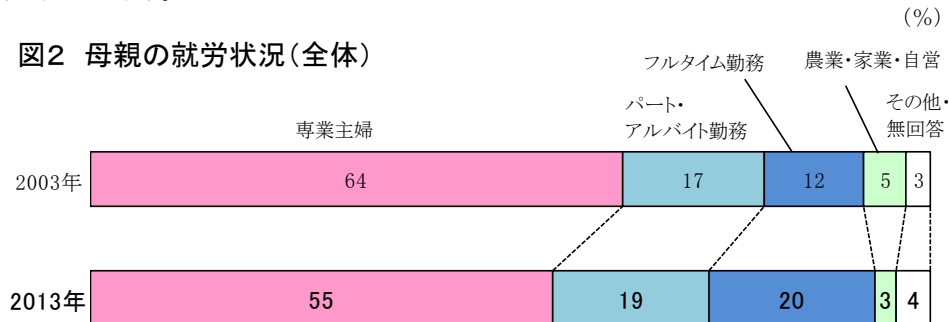
■ 幼児の保護者の半分以上が35歳以上

生活時間のデータを報告する前に、幼児の母親の属性について、この10年間の変化をみておく。調査票への記入を依頼した「幼児の養育を主にしている保護者」の年齢は、「35～39歳」(36%)が最も多く、次いで「30～34歳」(28%)、「40～44歳」(20%)となっている(図1)。10年前(2003年)と比べると高齢化し、35歳以上が半数以上を占める。



■ 「専業主婦」が減り、「フルタイム勤務」の母親が増加

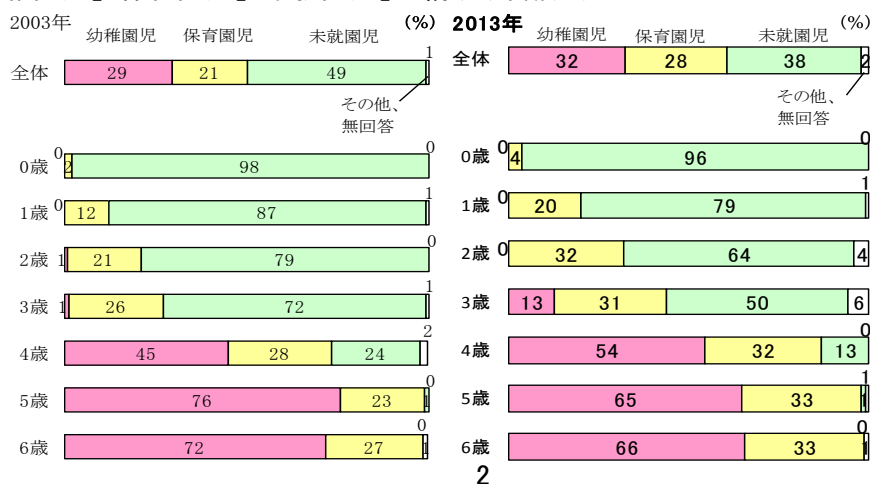
幼児全体の母親の就労状況を見ると、「専業主婦」(55%)が圧倒的に多く、「フルタイム勤務」(20%)と「パート・アルバイト勤務」(19%)が並ぶ。2003年と比べると、「専業主婦」が減少し(64%→55%)、「フルタイム勤務」が増加した(12%→20%)。



■ 母親の就労の影響で、低年齢(1～3歳児)の保育園児が増加

母親の就労が進んだ影響で、幼児の「幼稚園児」「保育園児」「未就園児」の構成をみると、10年前(2003年)と比べて「保育園児」が増加し(21%→28%)、未就園児が減少している(49%→38%)。年齢別にみると、2歳の「保育園児」、3歳の「幼稚園児」の割合がそれぞれ増加し、4歳の「未就園児」は減少しており、就園年齢が早まっている。

図3 「幼稚園児」「保育園児」「未就園児」の構成(年齢別)





2. 10年前と比べて“早寝早起き”の幼児が増加


■ 保育園児、幼稚園児、未就園児とも早起きに

睡眠の行為者率の時刻別推移をみてる。寝ている幼児の率が50%を切った時刻を「標準起床時刻」とすると、幼稚園児と保育園児はともに7時、未就園児は7時30分となっているが、10年前(2003年)と比べると、幼稚園児では6時～8時、保育園児では6時～7時30分、未就園児では6時～9時の時間帯で睡眠の行為者率が減少している。つまり、幼児全体で早起き化が進んでいる。

表1 睡眠の時刻別推移(就園別・月曜)

	<幼稚園児>		<保育園児>		<未就園児>	
	2003	2013	2003	2013	2003	2013
5:30-5:45	99	100	99	97	98	95
5:45-6:00	99	99	99	96	97	96
6:00-6:15	99	96	97	90	94	89
6:15-6:30	98	92	95	88	95	89
6:30-6:45	90	80	82	69	92	84
6:45-7:00	85	74	74	59	90	81
7:00-7:15	65	46	43	31	81	66
7:15-7:30	55	41	36	25	78	62
7:30-7:45	28	20	15	12	63	42
7:45-8:00	25	15	12	9	57	39
8:00-8:15	8	7	6	3	41	24
8:15-8:30	4	4	3	3	38	23
8:30-8:45	1	2	2	1	29	13
8:45-9:00	1	2	2	1	26	14

 の値は、2003年に比べて統計的に低いことを、
 の値は、2003年に比べて統計的に高いことを示している。(信頼度95%) (以下同様)


 は、寝ている人の率が50%を切った時刻

■ 夜も未就園児の標準就寝時刻が早まるなど、全般に早寝の傾向

次に、標準就寝時刻(睡眠の率が50%以上となる時刻)をみると、幼稚園児と未就園児は21時に対し、保育園児は21時30分となっている。10年前と比べると、未就園児で20時～23時30分、幼稚園児で20時～22時、保育園児で21時台で、睡眠の行為者率が増加しており、全体的に早寝の傾向がみられる。標準就寝時刻についても、未就園児は21時45分→21時と、45分早まった。

表2 睡眠の時刻別推移(就園別・月曜)

	<幼稚園児>		<保育園児>		<未就園児>	
	2003	2013	2003	2013	2003	2013
19:30-19:45	4	3	0	1	8	9
19:45-20:00	4	3	0	1	8	9
20:00-20:15	8	15	3	3	11	20
20:15-20:30	11	18	4	4	14	23
20:30-20:45	19	33	8	12	18	30
20:45-21:00	23	38	12	13	20	34
21:00-21:15	55	65	32	40	34	53
21:15-21:30	62	69	36	46	36	57
21:30-21:45	75	83	54	63	47	72
21:45-22:00	79	87	58	69	50	73
22:00-22:15	90	92	79	83	64	83
22:15-22:30	92	92	81	87	68	84
22:30-22:45	96	93	89	94	75	88
22:45-23:00	96	93	90	95	77	89
23:00-23:15	96	94	92	96	84	91
23:15-23:30	96	94	93	96	86	91

 は、起きている人の率が50%以上となった時刻

3. 保育園児の在園時間は長時間化 ～ 夕方の起床在宅率は低下

■ 保育園児の帰宅時刻が遅くなり、幼稚園児・保育園児の在園時間の差が広がる

幼稚園・保育園にいる率が50%未満になる標準退園時刻は、幼稚園が14時30分に対して、保育園児は17時45分で、10年前(2003年)と比べて、保育園児の在園率が16時30分～18時で増加し、帰宅時刻が遅くなった。このため、幼稚園児と保育園児の在園時間の差がさらに広がり、幼稚園児は6時間7分に対し、保育園児は9時間24分と、3時間以上の差がある。

表3 幼稚園・保育園、起床在宅の時刻別推移(就園別・月曜)

	<幼稚園・保育園>				<起床在宅>						(%)
	<幼稚園児>		<保育園児>		<幼稚園児>		<保育園児>		<未就園児>		
	2003	2013	2003	2013	2003	2013	2003	2013	2003	2013	
14:00 - 14:15	75	72	92	94	9	11	2	3	44	40	
14:15 - 14:30	65	64	92	94	17	16	2	3	43	40	
14:30 - 14:45	41	47	92	94	36	26	1	2	44	38	
14:45 - 15:00	37	43	91	94	38	29	2	2	44	38	
15:00 - 15:15	26	28	91	92	44	36	1	3	46	41	
15:15 - 15:30	20	25	91	92	46	38	2	3	47	42	
15:30 - 15:45	12	16	90	92	51	44	2	3	49	46	
15:45 - 16:00	10	14	90	92	53	46	2	3	50	47	
16:00 - 16:15	7	9	84	87	54	49	6	6	59	50	
16:15 - 16:30	6	9	83	86	54	50	7	6	60	51	
16:30 - 16:45	5	6	70	79	61	54	14	10	65	57	
16:45 - 17:00	5	6	65	78	62	56	18	12	66	58	
17:00 - 17:15	3	4	53	63	69	64	30	23	69	68	
17:15 - 17:30	3	4	51	62	71	66	34	24	70	70	
17:30 - 17:45	2	3	41	52	77	71	44	32	72	74	
17:45 - 18:00	1	3	38	47	79	73	46	35	72	75	

は、幼稚園・保育園の率が50%を切った時刻、起床在宅の率が50%以上となった時刻

■ 夕方から夜にかけて、幼稚園児と保育園児で行動に違い

このため、幼稚園児と保育園児では午後から夕方にかけての生活が大きく異なる。幼稚園児は帰宅後おやつを食べ、屋内遊びをして過ごす率が高い。屋外遊びやおけいこごとをする率も15時台や16時台に10%前後みられる。また、ビデオの利用は16時・17時台に10%前後あり、テレビは17時以降見る率が増え始める。一方、保育園児は、夕方の起床在宅率は低く、幼稚園児が多様な行動をしている間、ほとんどが保育園で過ごしている。

図4 幼稚園児の午後の生活(月曜)

<幼稚園児>	正午	13時	14時	15時	16時	17時	18時
食事				(おやつ)	すいみん		食事
		幼稚園・保育園	身のまわりの用事				
			外出			テレビ	
					録画番組・ビデオ		
					屋外遊び	屋内遊び	
				けいこごと			

4. テレビ視聴時間は大きく減少 ～ 朝の視聴は早朝化、夕方から夜にかけての視聴が減少

■ 10年前と比べると、行為者率・時間量とも減少

幼児全体のテレビの1日の行為者率は月曜・日曜とも77%、全員平均時間は月曜1時間39分、日曜1時間49分である。年齢別にみると、0歳児は月曜・日曜とも行為者率が半数前後に対し、3～5歳児は80%以上と高い。全員平均時間は4歳以上の高年齢児で月曜より日曜のほうが長めである。

10年前(2003年)からの変化をみると、曜日を問わず、行為者率・時間量(全員平均時間)ともに、減少した。年齢別にみても、月曜は0歳児を除くすべての年齢で行為者率・時間量がほぼ減少、日曜も3歳児や5歳児で行為者率・時間量が減少と、幅広い年齢で減少している。

表4 テレビの行為者率と時間量(年齢・就園別)

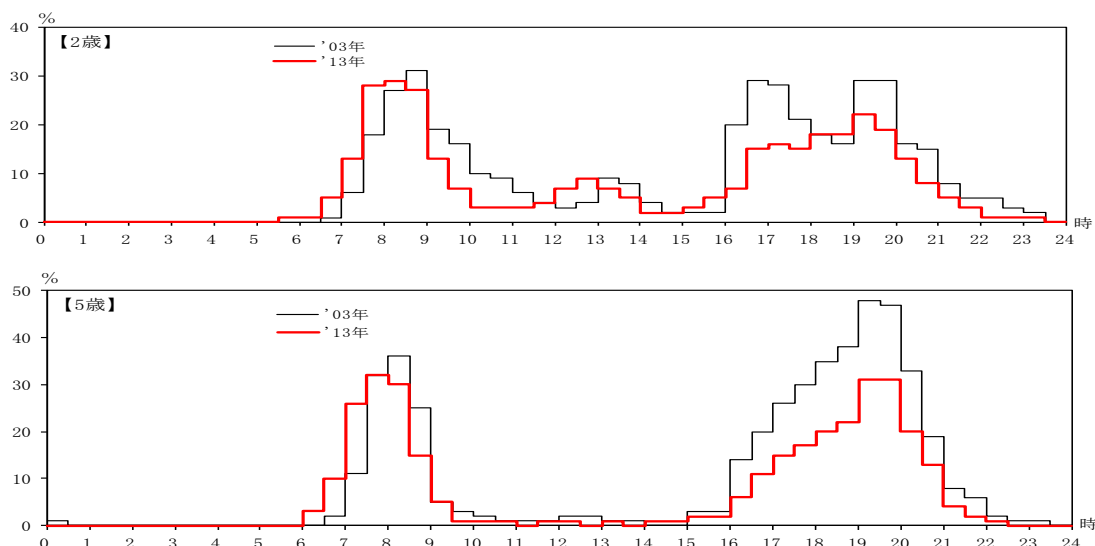
	月曜				日曜			
	行為者率		全員平均時間		行為者率		全員平均時間	
	'03年	'13年	'03年	'13年	'03年	'13年	'03年	'13年
幼児全体	87	77	2:12	1:39	84	77	2:03	1:49
0歳	68	53	1:36	1:12	55	43	1:12	1:01
1歳	89	74	2:17	1:45	76	66	1:33	1:39
2歳	86	73	2:07	1:41	81	70	1:42	1:34
3歳	89	80	2:21	1:48	92	82	2:17	1:47
4歳	89	85	2:25	1:49	89	88	2:20	2:08
5歳	94	81	2:17	1:36	92	84	2:24	1:57
6歳	89	77	2:07	1:30	88	88	2:30	2:13
幼稚園児	92	85	2:15	1:44	91	86	2:21	1:59
保育園児	85	70	1:45	1:10	88	79	2:20	1:56
未就園児	86	75	2:23	1:56	77	69	1:44	1:36

■ 時刻別にみると、早朝で増加、夕方から夜にかけての視聴が減少

月曜のテレビの時刻別の行為者率(30分平均)をみると、朝と夕方～夜に視聴の山がみられる。朝の視聴のピークは、7時台後半～8時台前半であり、2歳児は8時台後半も比較的よく見ている。また、夕方～夜の視聴は、2歳児は16時台後半に視聴が増加するが、5歳児は16時以降段階的に増加し、ピークは19時台となる。

10年前(2003年)からの変化をみると、2歳児では、夕方16時台の視聴が大きく減少しており、5歳児も夕方から夜間にかけて大きく減少している。一方、朝の時間帯は、6時台～7時台前半にかけて視聴が増加傾向にあり、視聴のピークがやや早い時間帯に移っている。

図5 テレビの30分ごとの平均行為者率(月曜・2歳児と5歳児)



5. 録画番組・ビデオ視聴時間は日曜で行為者率・時間量が増加

■ 2歳児は月曜・日曜とも半数以上が視聴

幼児全体の録画番組・ビデオの1日の行為者率は月曜39%、日曜46%、行為者平均時間は月曜1時間20分、日曜1時間28分、視聴しない人も含めた全員平均時間は月曜31分、日曜40分であった。年齢別にみると、月曜は2～3歳児で行為者率が半数程度と高めであるが、日曜になると、高年齢児（4～6歳）の行為者率も半数程度まで増加する。

10年前（2003年）からの変化をみると、月曜は変化がないが、日曜は幼児全体の行為者率・時間量ともに増加した。

表5 録画番組・ビデオの行為者率と時間量（年齢・就園別）

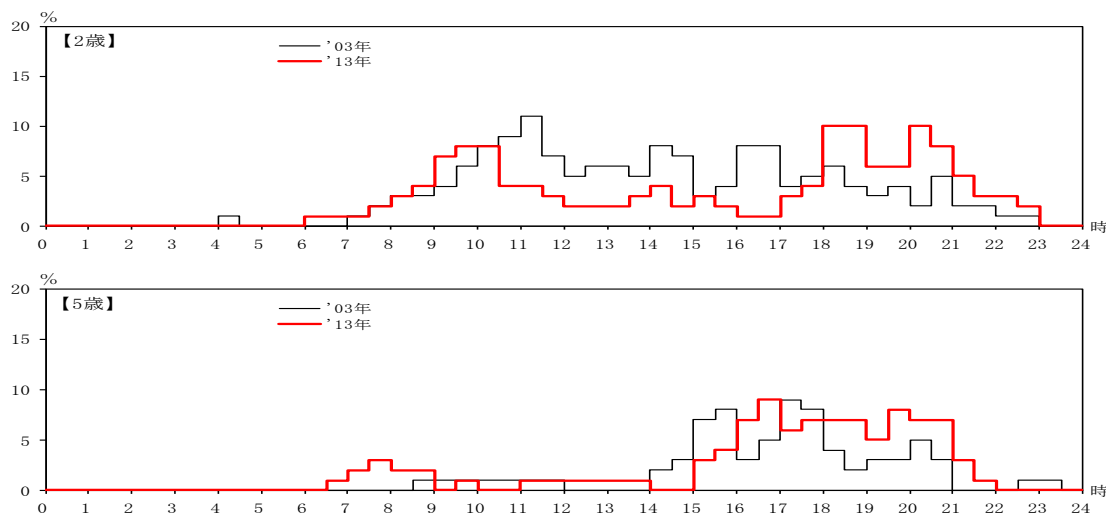
	月曜				日曜			
	行為者率		全員平均時間		行為者率		全員平均時間	
	%	時間:分	%	時間:分	%	時間:分	%	時間:分
幼児全体	'03年 39	'13年 39	'03年 0:29	'13年 0:31	'03年 41	'13年 46	'03年 0:33	'13年 0:40
0歳	18	14	0:12	0:09	13	17	0:09	0:09
1歳	40	41	0:29	0:34	44	43	0:35	0:34
2歳	54	50	0:45	0:40	55	55	0:45	0:56
3歳	49	47	0:42	0:39	45	46	0:35	0:41
4歳	40	39	0:29	0:34	43	51	0:35	0:44
5歳	32	39	0:21	0:29	41	50	0:32	0:46
6歳	31	31	0:19	0:25	34	44	0:28	0:36
幼稚園児	34	38	0:23	0:30	39	47	0:30	0:39
保育園児	28	35	0:18	0:24	40	50	0:35	0:45
未就園児	46	42	0:38	0:37	43	41	0:33	0:38

■ 時刻別にみると、19時以降の夜間の視聴が増加傾向

月曜の録画番組・ビデオの時刻別の行為者率（30分平均）をみると、ビデオを最もよく見ている2歳児では、9時～10時台を中心に視聴の山があるが、5歳児は午前中の視聴は少ない。夕方～夜には、2歳児は18時台に視聴のピークがあるが、5歳児は2歳児よりやや早い16時台以降、視聴が増え始めており、16時～21時の幅広い時間帯に視聴の山がみられる。これは、低年齢児は16時～17時台にテレビをよく見ているため、ビデオの視聴の山がやや遅い時間帯にずれこんでいると考えられる。

10年前と比べると、2歳児では11時～17時にかけての幅広い時間帯で、5歳児でも14時～15時台で視聴が減少している。これは、2歳児では、就園児の割合が増えたこと、また、10年前は雨天であったのに対し、今回は好天に恵まれ、日中、自宅外で過ごした幼児が増えたことも影響していると考えられる。一方、夕方～夜間の時間帯は、10年前にはあまり見られなかった19時以降の夜間のビデオ視聴がやや目立つようになっている。

図6 録画番組・ビデオの30分ごとの平均行為者率（月曜・2歳児と5歳児）



6. テレビ・携帯ゲームとインターネット

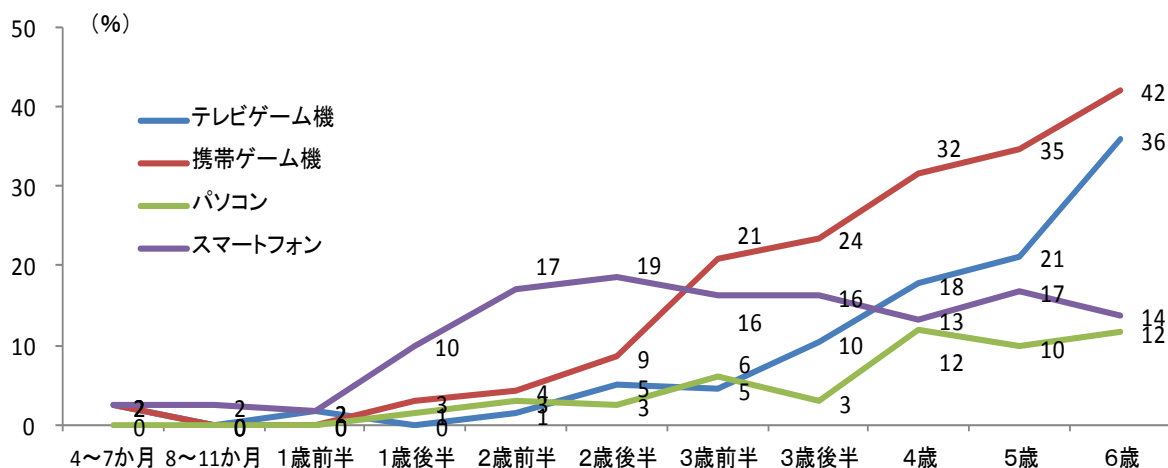
■ テレビ・携帯ゲームは6歳児の3人に1人が利用（日曜）

付帯質問で、どの程度の幼児がデジタル機器を自分で使うかを尋ねた。携帯ゲーム機は、月齢が進むにつれ自分で使う幼児が増え、5歳～6歳児では4割前後が自分で使っている。テレビゲーム機も5歳から6歳にかけて自分で使う幼児が大幅に増える。一方、スマートフォンは早い段階から使う幼児が増え、1歳後半で1割、2歳前半以降は2割弱が使うようになる。

幼児全体のテレビ・携帯ゲームの1日の行為者率は、月曜10%、日曜16%と日曜のほうが高い。年齢が上がるほど行為者率が高く、6歳児は月曜20%、日曜33%に達する。

また、今回の調査では、インターネット（ウェブサイトや動画）の利用についても調査した。幼児全体の行為者率は月曜4%、日曜6%で、テレビ・携帯ゲームよりは低かった。年齢別には2歳児の行為者率が高く、日曜は1割に達する。

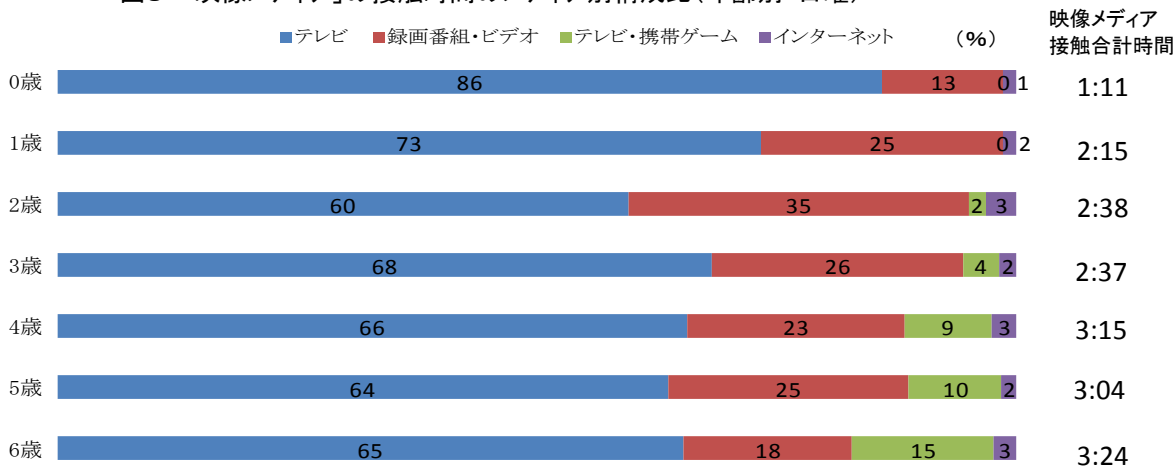
図7 デジタル機器を幼児自身が使う割合



■ 録画番組・ビデオの割合が高い2歳児、テレビ・携帯ゲームの割合が高い6歳児

テレビ、録画番組・ビデオ、テレビ・携帯ゲーム、インターネットを合わせて「映像メディア」とし、幼児がトータルでどのように「映像メディア」に接しているか、各メディアの接触割合をみた。各メディアの割合をみると、「テレビ」の占める割合は0歳児は86%、1歳児は73%と高めだが、2歳児以上は6割台と、割合が少なくなる。一方、「録画番組・ビデオ」は1歳児から5歳児まで2割以上を占め、「映像メディア」全体のおよそ4分の1程度を占めていることになる。「テレビ・携帯ゲーム」の割合は高年齢児で上がり、6歳児で15%を占める。

図8 「映像メディア」の接触時間のメディア別構成比（年齢別・日曜）



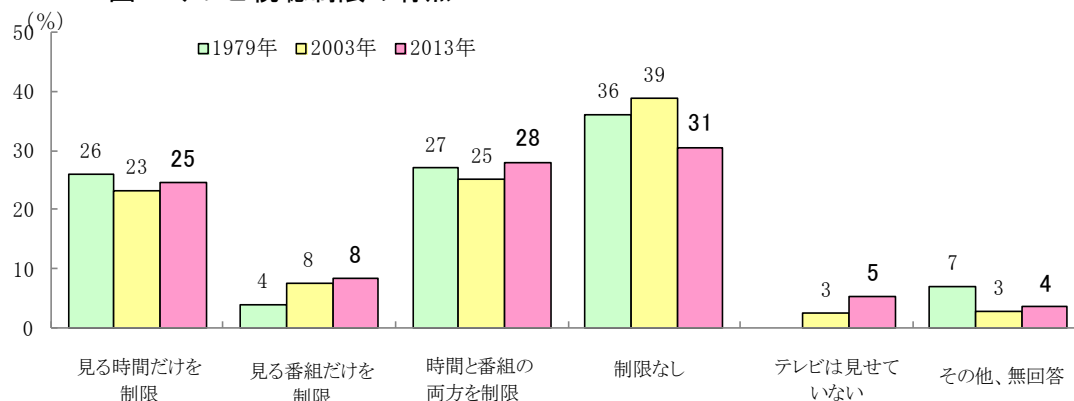
7. 母親のテレビ視聴も大きく減少 ～ 関連が高い母親と幼児のテレビ視聴

■ 幼児のテレビ視聴に何らかの制限をしている保護者が増加

付帯質問で、子どもにテレビを見せるうえで、何らかの視聴制限をしているかどうかを尋ねた。「自由に見せている(制限なし)」という人(31%)に対し、何らかの視聴制限をしている人(61%)が多数派である。

1979年、2003年と時系列変化をみると、「自由に見せている」が2003年から減少、何らかの視聴制限をしている人が増加した(56%→61%)。

図9 テレビ視聴制限の有無

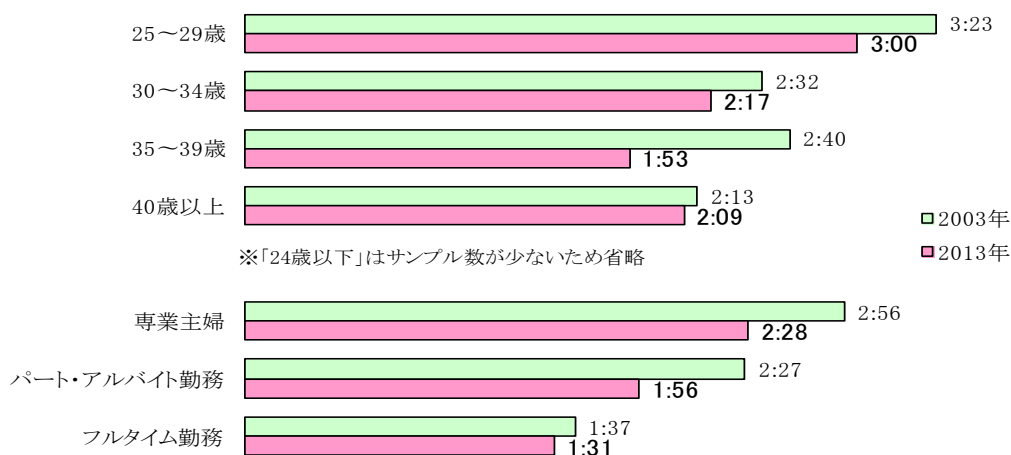


■ 母親のテレビ視聴時間も減少

母親のテレビ視聴時間(月曜)について、母親の年齢別にみると、25～29歳と比較的若い母親で長めになっている。また、就労別にみると、専業主婦>パート・アルバイト勤務>フルタイム勤務の順で長い。

10年前と比べると、母親全体のテレビ視聴時間は、2003年の2時間40分から、今回は2時間9分と、30分余り減少した。年齢別には、35～39歳の母親で減少し、就労別には、専業主婦とパート・アルバイト勤務で減少した。

図10 母親のテレビ視聴時間量(2003-2013比較・月曜)



■ 母親の視聴時間の長短と子どもの視聴時間の長短は関連性が高い

母親の視聴時間量別に幼児のテレビ視聴時間をみると、母親の視聴時間が長いほど、子どもの視聴時間も長くなっており、両者の関連性が高いことがうかがえた。

図11 幼児のテレビ視聴時間量(母親の視聴時間量別・2003-2013比較・月曜)

